



名古屋駅周辺まちづくりの現在の状況

令和 6 年 3 月
(令和 6 年 5 月一部改訂)

名古屋市



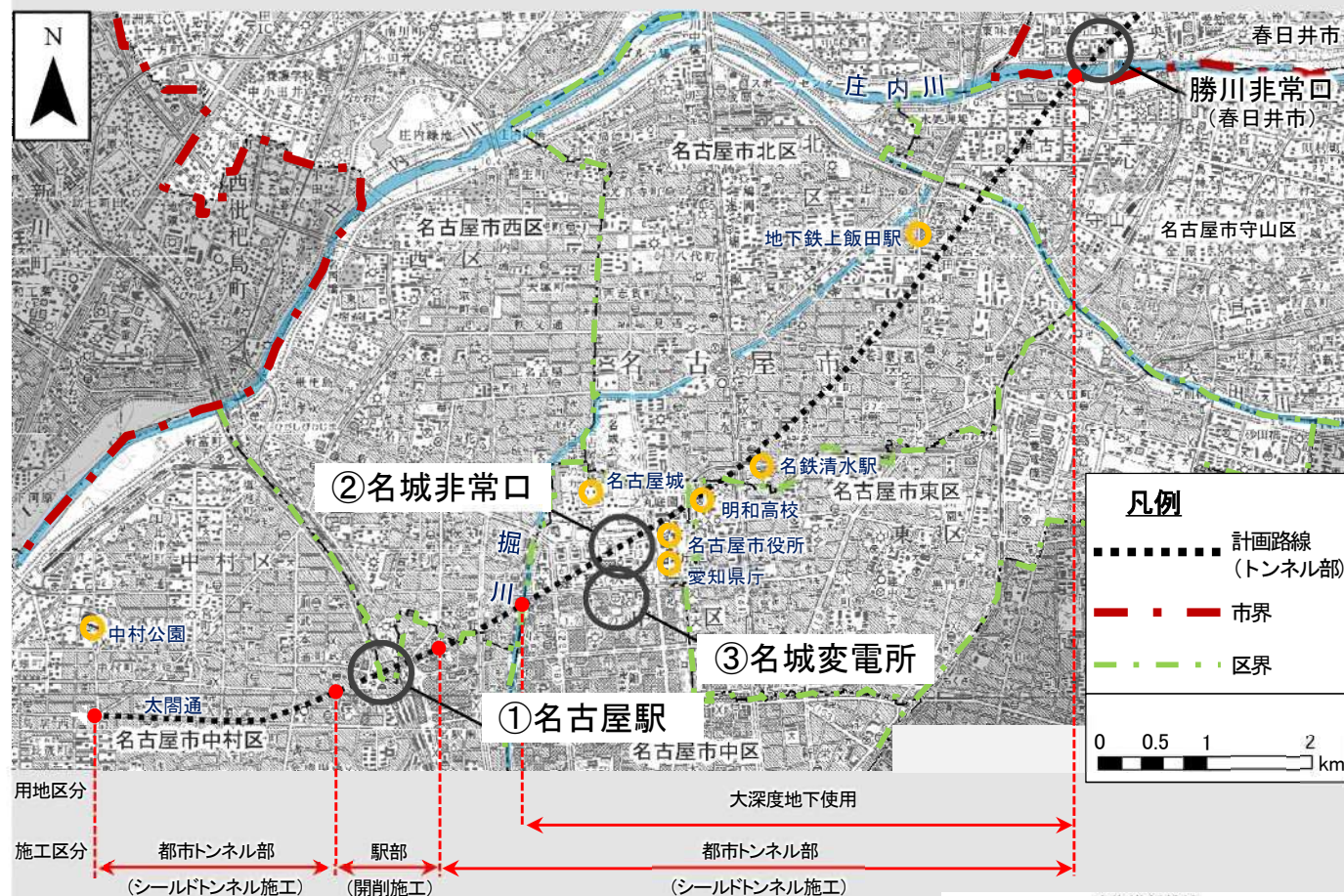
目 次

1. これまでの経緯	・ ・ ・ ・	2
2. リニア中央新幹線に関する動き	・ ・ ・ ・	3
3. 名古屋駅周辺まちづくりに関する動き	・ ・ ・ ・	5
(1) リニア駅周辺の面的整備	・ ・ ・ ・	6
(2) 名古屋駅駅前広場周辺の再整備	・ ・ ・ ・	10
・ 東側駅前広場	・ ・ ・ ・	11
・ 西側駅前広場	・ ・ ・ ・	16
(3) 名駅南まちづくり方針の策定	・ ・ ・ ・	21
(4) ささしまライブ24地区名駅南地区へのアクセス改善	・ ・ ・ ・	23
(5) 名古屋駅とのアクセス性向上（高速道路）	・ ・ ・ ・	25
4. 関連プロジェクト	・ ・ ・ ・	27
(1) 地域ごとの特色を活かしたまちづくり	・ ・ ・ ・	28
(2) 名古屋駅周辺の防災性の向上	・ ・ ・ ・	30
(3) 都市機能の強化	・ ・ ・ ・	31
(4) 新たな路面公共交通システム（S R T）の導入	・ ・ ・ ・	34

1.これまでの経緯

	リニア中央新幹線	名古屋駅周辺まちづくり
H26 { R1	● 工事実施計画（その1）認可（H26.10） ● 用地協定締結（H27.1） ● 名城非常口工事着工（H28.6） ● 名古屋駅（駅中央部）工事着工（H28.12） ● 工事実施計画（その2）認可（H30.3） ● 大深度地下使用認可（H30.10） ● 名城変電所工事着工（H30.12）	● 名古屋駅周辺まちづくり構想策定（H26.9） ● 名古屋駅周辺交通基盤整備方針策定（H30.3） ● リニア駅周辺のまちづくりの方向性（中間とりまとめ）及び名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）策定（H31.1）
R2	● 名古屋駅（東山線工区）工事着工（R2.2） ● 名古屋駅（西工区）工事着工（R2.7）	● 東側駅前広場地上部の都市計画変更（R2.3） ● 名古屋高速道路の新黄金出入口及び新洲崎出入口の都市計画変更（R2.3）、事業認可取得（R2.10）
R3	● 名古屋駅（東工区）工事着工（R3.6） ● シールドトンネル工事 安全・安心等の取組み説明会（R3.9）	● 名古屋高速道路の栄出入口、西渡り線・南渡り線等の都市計画変更（R3.3）、事業認可取得（R3.10）
R4	● 名城非常口工事完成（R4.7） ● シールド機組立等工事着手（R4.7）	● 西側駅前広場のデザイン計画策定（R4.12）
R5	● 工事実施計画（その3）認可（R5.12）	● 東側駅前広場地下部の都市計画変更（R5.12）
R6	● シールド掘進工事説明会(調査掘進等)（R6.1）	● 西側駅前広場の整備計画公表（R6.2） ● 名駅南まちづくり方針策定（R6.3）

■名古屋市内的におけるリニア中央新幹線建設の状況



出典：JR東海 中央新幹線名古屋駅新設工事における環境保全について(令和3年6月更新)

用地取得の状況

- 駅部
…駅東側・西側ともに取得完了
駅工事(全5工区)で工事着手
- 都市トンネル部
…区分地上権設定を実施中
(大深度地下使用区間等除く)



1 名古屋駅東側の状況(令和6年2月)



2 名古屋駅西側の状況(令和6年2月)

■工事の状況

①名古屋駅

○概要

リニア中央新幹線名古屋駅の建設

○工事状況

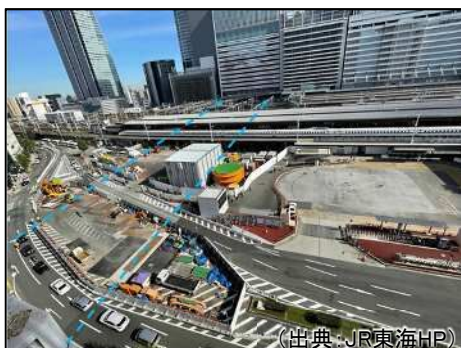
- ・東工区 : 地中連続壁工事を実施中
- ・東山線工区 : 地中連続壁・工事用立坑・路面覆工等の工事を実施中
- ・中央東工区 : 地中連続壁工事を実施中
- ・中央西工区 : 地中連続壁・路面覆工等の工事を実施中
- ・西工区 : 地中連続壁・路面覆工等の工事を実施中



【東山線工区】
(令和5年12月)



【中央東工区】
(令和5年12月)



【中央西工区】
(令和5年12月)



【西工区】
(令和5年12月)

②名城非常口（発進立坑）

○概要

- ・名城東小公園跡地における非常口の建設
- ・名古屋駅及び勝川非常口へのトンネルの敷設

○工事状況

- ・非常口工事完成
(令和4年7月)
- ・トンネル準備工事実施中
- ・準備が整い次第、シールドトンネル工事（調査掘進）に着手



シールド掘進準備工事(令和6年2月)

③名城変電所

○概要

- ・愛知県産業貿易館本館跡地における変電所の建設
- ・名城非常口への電気洞道の敷設

○工事状況

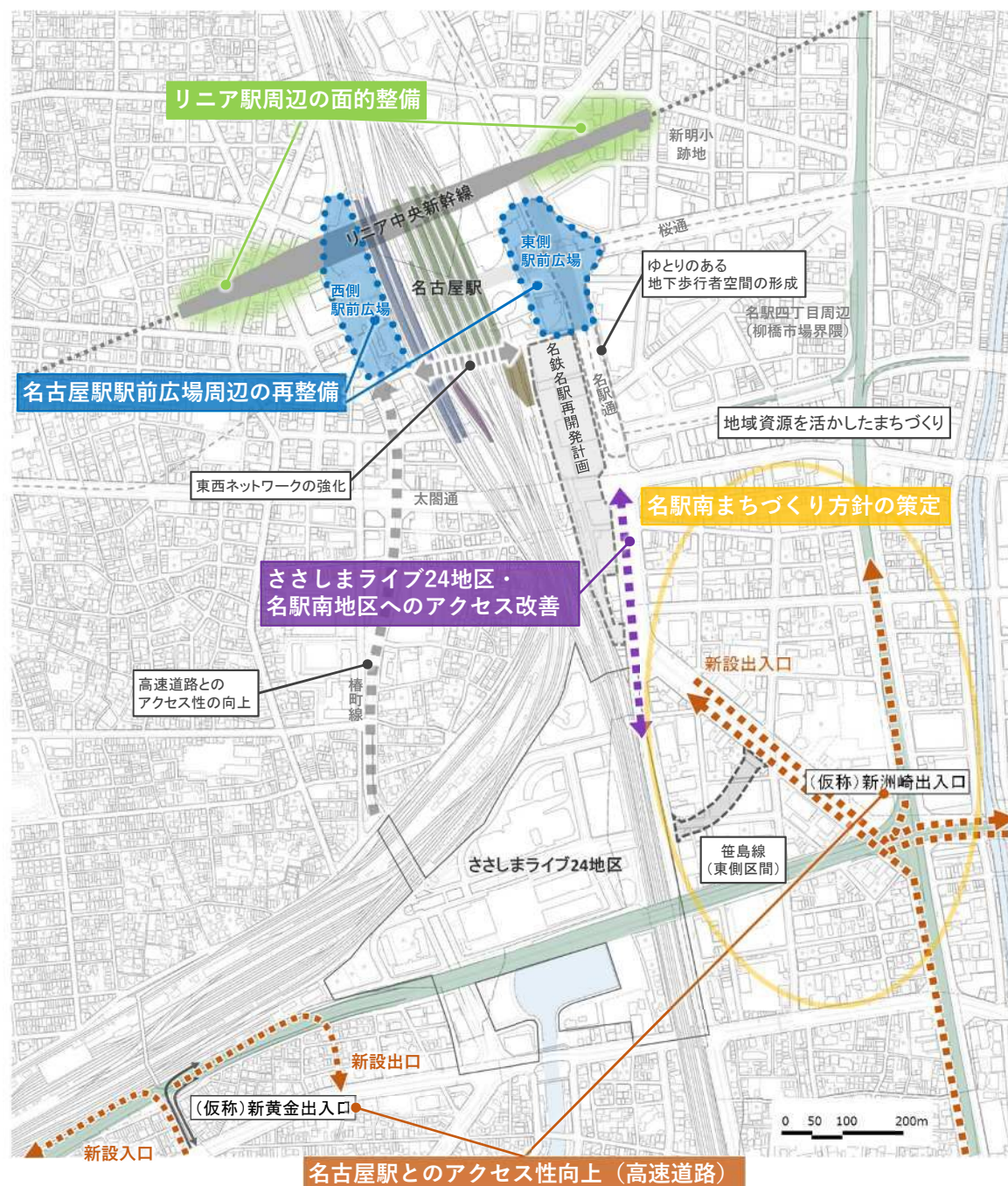
- ・地上躯体工事完了
- ・電気設備工事を実施中



地上躯体工事完了(令和5年3月)

3. 名古屋駅周辺まちづくりに関する動き

5



リニア駅周辺の面的整備

P.6~9

- ・まちづくりを地域や関係者と連携・協力し推進

名古屋駅駅前広場周辺の再整備

P.10~20

●東側駅前広場

- ・デザインチームを選定し、デザイン計画を作成

●西側駅前広場

- ・リニア中央新幹線開業時の姿について、R6年度から本格工事に着手予定
- ・リニア中央新幹線開業後のできる限り早期に、重層的な拠点の形成

名駅南まちづくり方針の策定

P.21~22

- ・将来像等を示す方針を策定 (R6.3) し、ウォークブル等のまちづくりを推進

ささしまライブ24地区

- ・名駅南地区へのアクセス改善

P.23~24

- ・地下公共空間の事業着手に向けた調整等を実施中

名古屋駅とのアクセス性向上 (高速道路)

P.25~26

●(仮称)新洲崎出入口、(仮称)新黄金出入口

- ・都市計画事業認可を取得 (R2.10)

●(仮称)栄出入口、丸田町JCT西渡り線・南渡り線

- ・都市計画事業認可を取得 (R3.10)

3-(1) リニア駅周辺の面的整備

■事業概要

リニア駅上部空間を、広場利用を主とした公共的空間として活用するとともに、それらに伴う道路の再配置、また、周辺街区の開発誘導や土地の高度利用促進などを図ることにより、まちの顔づくり・拠点づくり、防災性向上を面的に進める

■目標とするまちの姿

人々が集い、憩い、交流する広場が中心にあるまち

■リニア駅上部空間の計画検討状況図

西地区



- (注) 1 結節軸とは、名古屋駅西側エリアの回遊の起点である駅前広場とまちをつなぎ、回遊性を形成する軸線をいう。
2 リニア関連施設は、できる限り広場空間と調和するように配置
3 ※印箇所にはリニア関連施設が配置される場合は、広場とならない可能性あり
4 今後の関係者との調整により、広場面積、道路配置・幅員について変更の可能性あり

<広場計画コンセプト>

- ・箕瀬通以東は、イベントなどによりにぎわいのある空間を形成する
- ・箕瀬通以西は、周辺住宅街や椿神明社と調和した緑あふれる空間を形成する



東地区



- (注) 1 リニア関連施設は、できる限り広場空間と調和するように配置
2 今後の関係者との調整により、広場面積、道路配置・幅員について変更の可能性あり

<広場計画コンセプト>

- ・広場から周辺のまちへと人が回遊するような、魅力的なプロムナード空間を形成する

■ 結節軸における歩道リニューアル等に向けた社会実験の実施

【実施概要】

期間	令和5年10月30日から11月12日
場所	市道駅西第5号線（中村区椿町地内）
主催	名古屋駅西地区まちづくり推進会議 （エキニシタウン会議）ストリート検討部会 牧野学区区政協力委員会/名古屋駅太閤通口まちづくり協議会/ 名古屋駅西銀座通商店街振興組合/名古屋市
内容	市道駅西第5号線の北側歩道を約4m拡幅し、拡幅部内にぎわい創出に資する利活用を行った
目的	将来のエリアマネジメント実施に向けたにぎわい創出とその効果の検証及び、歩道拡幅に伴う交通への影響の検証のため

【エリアマップ】



【歩道拡幅のための車線規制】



【社会実験のチラシ】

名古屋エキニシタウン
エンタランス
ここは名古屋の玄関口

名古屋
Ent.

2023
10.30 MON • 11.12 SUN
9:30 ~ 21:30 (イベントごとに時間が異なります)
TSUBAKI フェスタ 11.3 • 11.4 開催

道路の使い方を考える2週間の社会実験

社会実験やイベントの情報は、リアアズX及びウェブサイトにてお知らせします！

名古屋リアアズX @794sk1, 11newske
市公式ウェブサイト

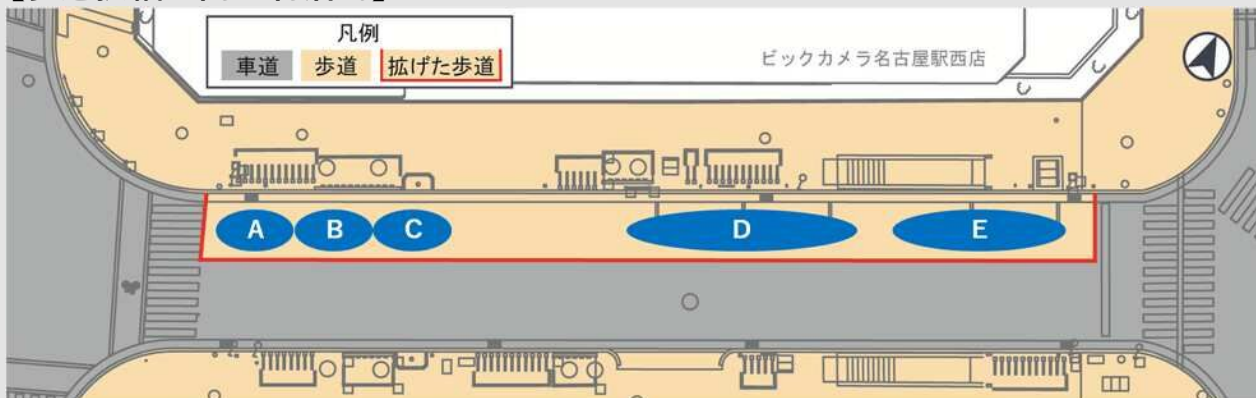
社会実験の注意喚起とお願い

- ・入場料は無料です。
- ・共有スペースですので、譲りあってご利用ください。
- ・来場者用駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。
- ・各自で出たごみは各自持ち帰りください。
- ・21:30～翌朝5:00の間、拡げた歩道空間は閉鎖されます。
- ・日程・内容については天候等により変更する場合があります。

主催
名古屋駅西地区まちづくり推進会議（エキニシタウン会議）ストリート検討部会
（牧野学区区政協力委員会/名古屋駅太閤通口まちづくり協議会/名古屋駅西銀座通商店街振興組合/名古屋市）

問合せ：名古屋駅西地区まちづくり推進会議 / 名古屋駅西銀座通商店街振興組合 / 名古屋市
TEL 052-973-3944 FAX 052-973-4171

【歩道拡幅空間の利活用】



新幹線やツインタワーを眺めながら飲食や休憩ができました！



◀シェアサイクルを6台設置し、太閤秀吉功路をPRする広告を掲載



◀駅西エリアのまちづくりについての紹介や、太閤秀吉功路に関連したイベントの周知



▲地元にゆかりのある物販を開催（土休日）



▲イス、テーブル、ベンチを設置



▲キッチンカーが出店

検証結果	アンケート調査 (来訪者335人を対象)	「歩道を広げた空間を利用してみてどう感じたか？」という質問に対し、 約9割が「満足」「やや満足」と回答
	交通量調査 (交差点交通量、渋滞・滞留長等)	社会実験中と平常時で交通の状況に大きな差はみられず、 歩道拡幅による大きな影響はなかった

今回の結果を受けて、歩道リニューアルを実施していきます！

■まちづくりの取り組み

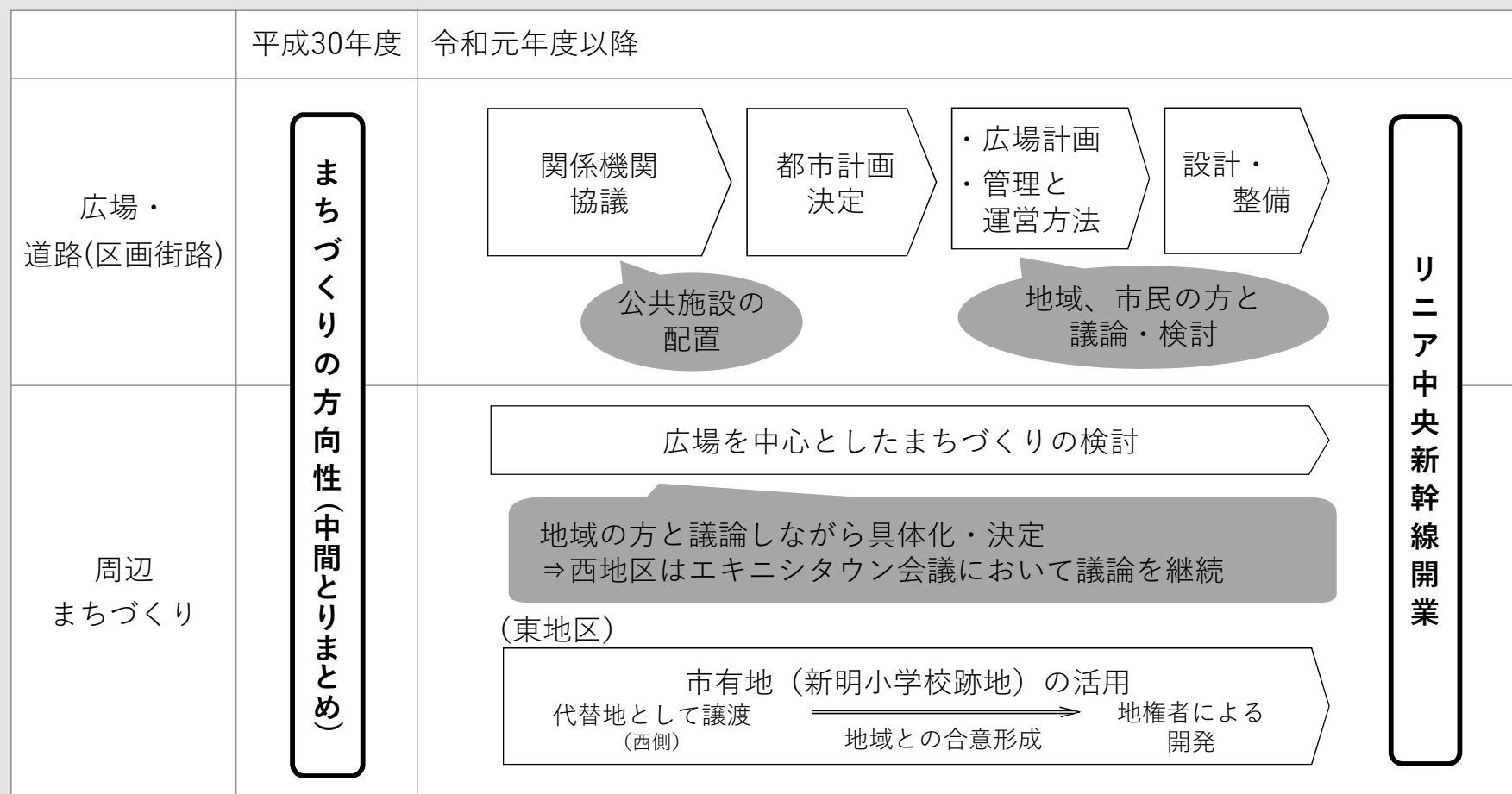
リニア駅上部空間の整備

- ・リニア駅上部空間を広場として活用し、にぎわい創出や緑を活かした魅力向上を図るとともに、防災機能を確保
- ・まとまりのある広場空間の確保、周辺の無接道敷地の解消、土地の集約・整形による魅力づくりなどの観点から、道路を再配置

周辺まちづくり

- ・【西地区】名古屋駅西地区まちづくり推進会議（エキニシタウン会議）にて、まちの将来像等について検討
- ・【東地区】新明小学校跡地に民間の力を活用し、地域の交流・防災拠点やビジネス拠点となる空間を検討

■進め方



3-(2) 名古屋駅駅前広場周辺の再整備（東側駅前広場）

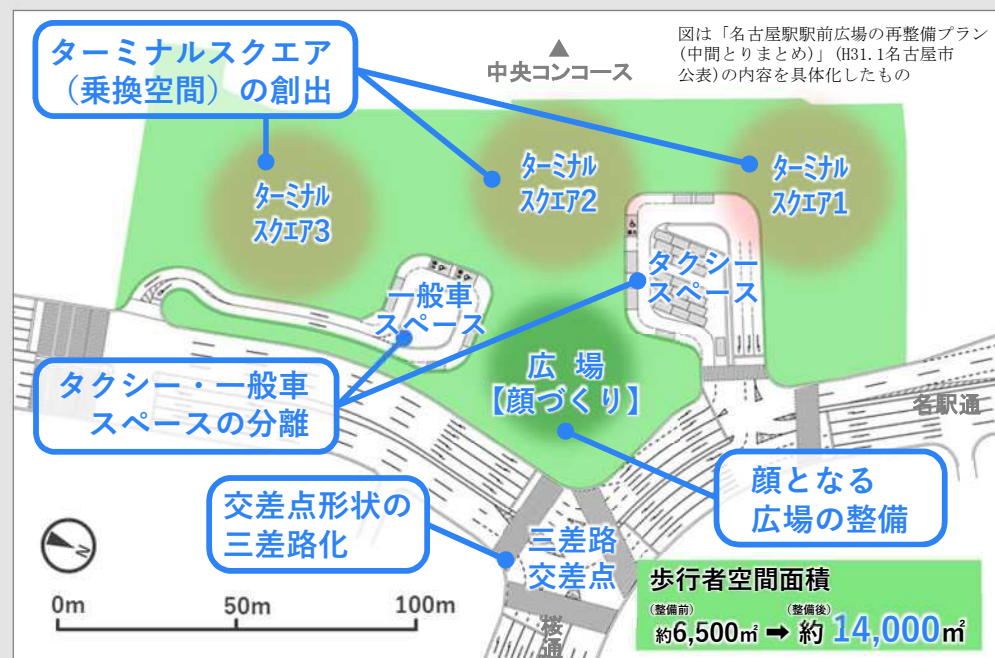
■ 地上部の整備内容等

ロータリー交差点の改良などを行い、「飛翔」の位置まで広場を広げ、まちにつながる歩行者空間、乗換空間等の整備を図る

（検討状況）

- 全体の施設配置について、トータルデザイン検討会議（有識者会議）等において検討
- 一般車の利便性やアクセス性、交通処理を検討
- 地上部の都市計画変更（R2.3）

（整備内容）



※道路の詳細構造、施設の配置や規模等については、関係者との調整により今後変更することがある。
 ※「新たな路面公共交通システム（SRT）」と整合を図りつつ、乗降・待合空間の配置について検討を行っている。
 ※ターミナルスクエア3については名鉄名駅再開発計画との整合等が必要。

■ 地下部の整備イメージ等

わかりやすく視認性の高い歩行者空間やゆとりある地下広場を確保するとともに、防災性、安全性の向上を図る

（検討状況）

- 地上と地下をつなぐ昇降施設の構造的な検討
- 地下街店舗・設備の移設などの機能確保の検討・調整
- 地上へ直接避難できる階段等による防災性・安全性の向上の検討
- 地下部の都市計画変更（R5.12）

（整備イメージ）



■ ロータリー交差点部分の工事

- 現在のロータリー交差点部分まで歩行者空間を広げるため、順次工事を実施している
- モニュメント「飛翔」の解体工事はR5.9に完了し、現在は地下にある名駅前ポンプ所の工事中

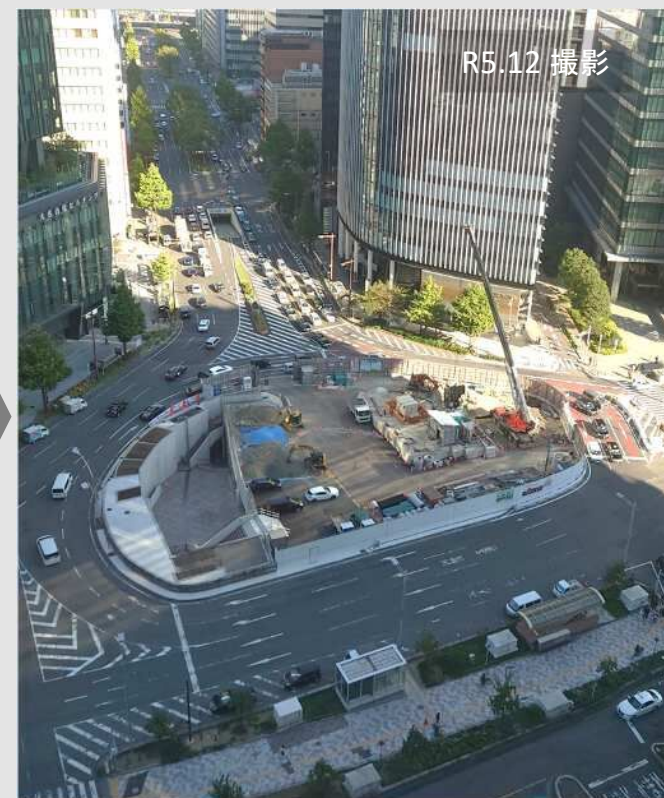
(工事前)



(「飛翔」解体)



(ポンプ所工事)



■ デザイン計画の作成に向けて、デザインチームを選定

(令和6年5月改訂)

- これまでの検討内容を踏まえ、コンセプトや施設の配置等について、最終形の基本的な考え方をまとめるため、東側駅前広場再整備のデザイン計画を作成する

《デザインチームの構成員》

※令和6年5月31日契約

<代表者>

- 株式会社内藤廣
建築設計事務所
(代表取締役 内藤 廣 氏)



内藤 廣 氏

- 有限会社小野寺康
都市設計事務所
(取締役代表 小野寺 康 氏)



小野寺 康 氏

- ナグモデザイン事務所
(代表 南雲 勝志 氏)



南雲 勝志 氏

- パシフィックコンサルタンツ株式会社

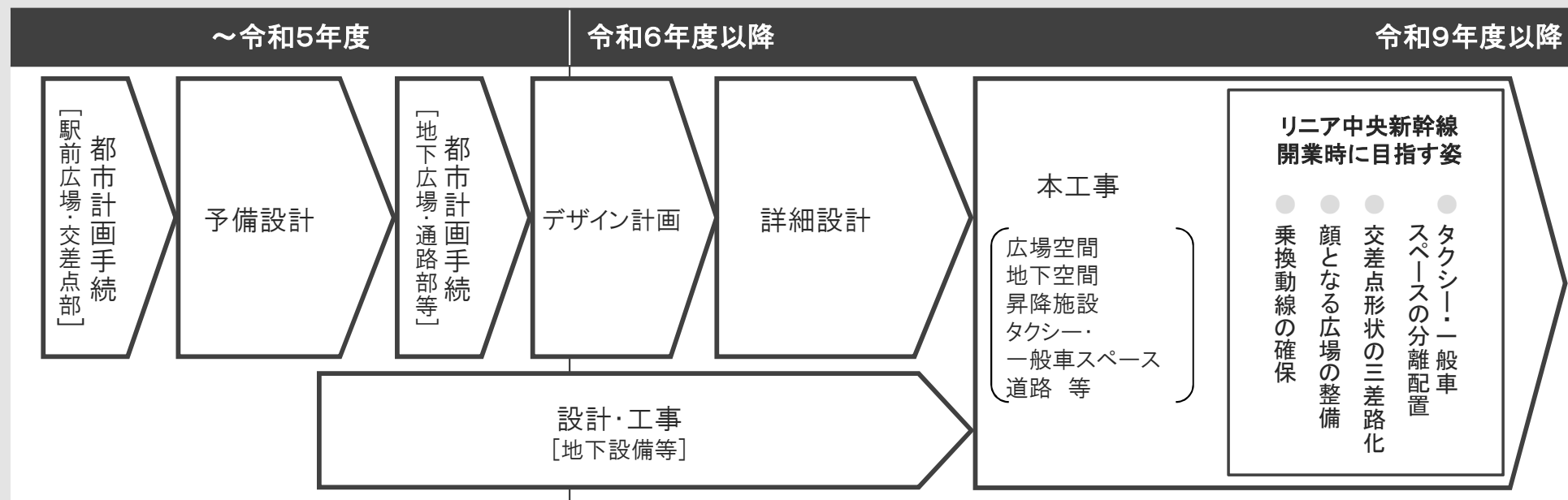


※東側駅前広場を中心とし、道路空間や周辺の建物と景観の調和を図るものとする

■ 今後の進め方（東側駅前広場）

- ・ ターミナルスクエア 2 とその周辺は、リニア中央新幹線の開業に向けて、交差点の三差路化、タクシー・一般車スペースの分離配置に向けた整備を着実に進めていく
- ・ ターミナルスクエア 3 は、名鉄名駅再開発計画の動向を注視しつつ、引き続き関係機関と調整する

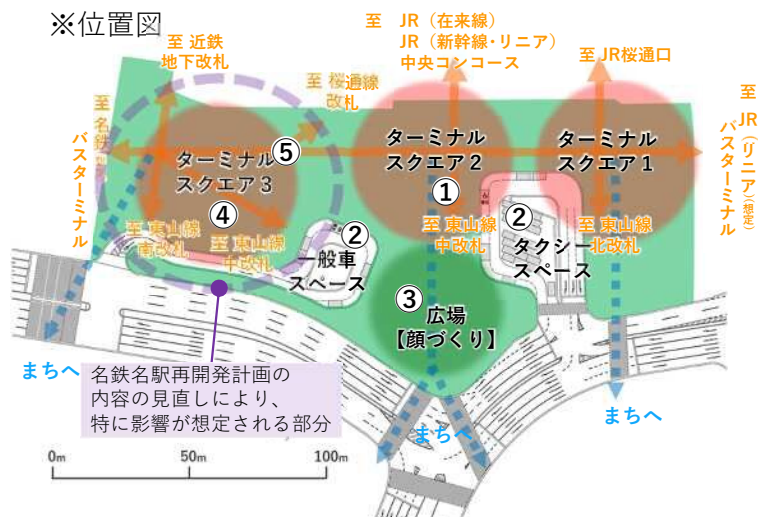
■ スケジュール（東側駅前広場）



参考

◆ ターミナルスクエアの主な役割

※位置図



(ターミナルスクエア 2 及びその周辺)

- ① 中央コンコースから地下鉄東山線等やまちへの動線や見通しの確保
- ② タクシー・一般車スペースの分離配置
- ③ 地上の歩行者空間を拡充し、名古屋らしさを感じられる「顔」となる空間の確保

(ターミナルスクエア 3)

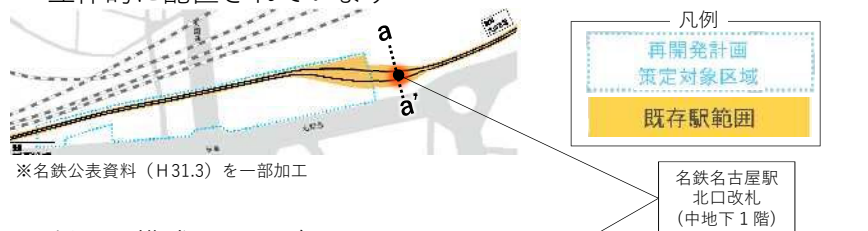
- ④ 地上の歩行者空間を拡充し、わかりやすく快適な乗換空間の確保
- ⑤ 中央コンコースから名鉄・近鉄等やまちへの動線や見通しの確保

(注) 名鉄名駅再開発計画の内容の見直しとは、名鉄が令和2年11月に公表した計画見直しの概要
 (「スケジュールおよび内容を見直し」及び「事業の方向性は2024年度を目途に判断」をいう

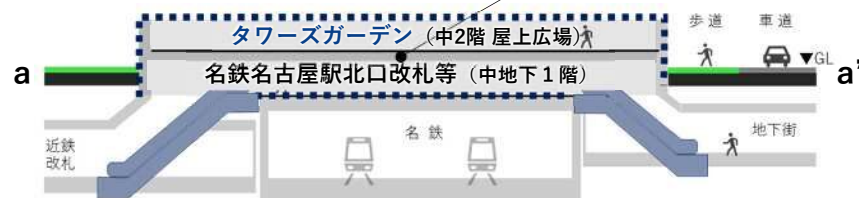
◆ 名鉄名駅再開発計画とターミナルスクエア3との関係

【現況】

名鉄鉄道函体、名鉄名古屋駅北口改札等、タワーズガーデンが立体的に配置されています

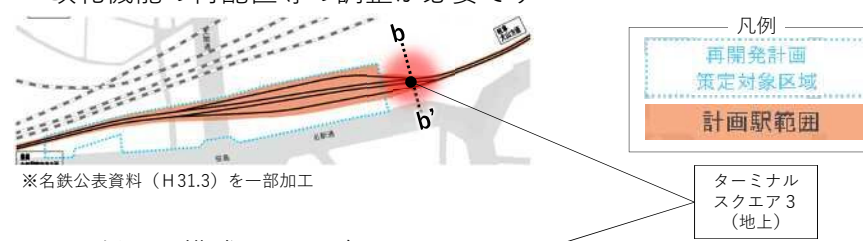


※断面の構成イメージ

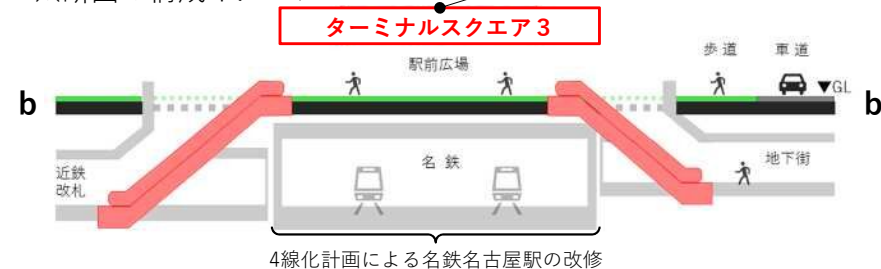


【将来】

ターミナルスクエア3の整備にあたっては、名鉄名古屋駅北口改札機能の再配置等の調整が必要です



※断面の構成イメージ



4線化計画による名鉄名古屋駅の改修

3-(2) 名古屋駅駅前広場周辺の再整備（西側駅前広場）

■ 基本的な考え方

【リニア中央新幹線開業時の姿】

リニア中央新幹線開業時を目指して、早期にリニア効果が発現できるように、必要な交通結節機能の確保と空間形成を行う。そのために、当面、駅前広場は**平面レベルの限られた空間の中で機能確保**を行う。

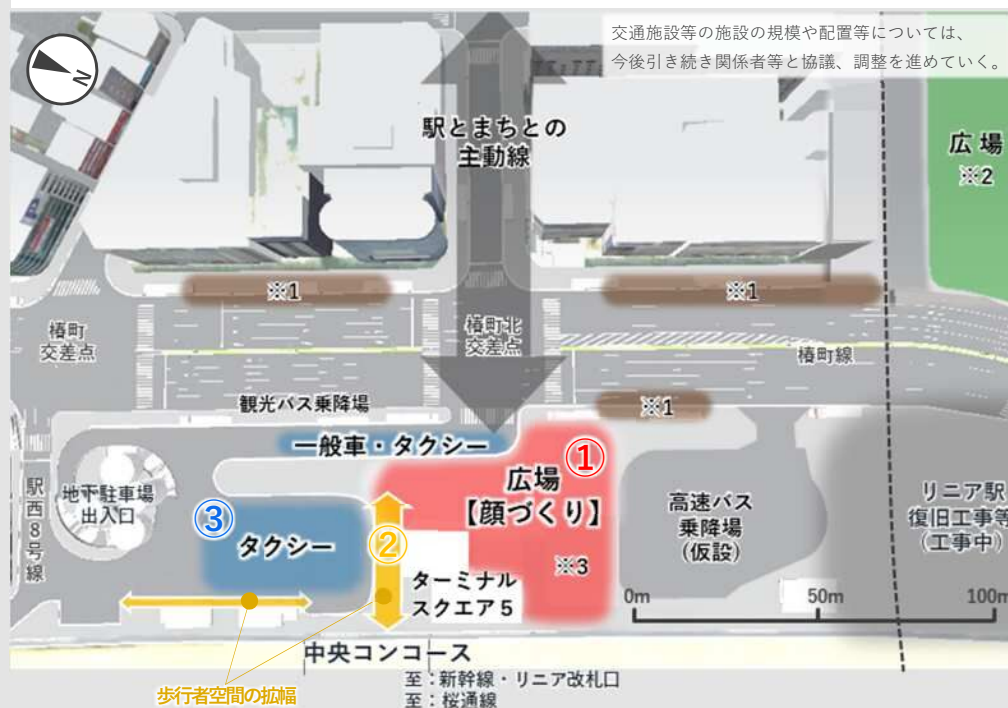
【西側エリアの目指す姿】→P.19

リニア中央新幹線開業後のできる限り早期に、スーパー・メガリージョンの中心にふさわしい**重層的な拠点の形成**を目指して再整備を行う。そのために、関係者との調整を十分に進めるとともに民間事業者との連携を深め、施設配置や動線等について多様な視点による検討を行う。（注）交通結節機能について、隣接エリアの活用も含めた検討を行う

■ リニア中央新幹線開業時の姿

- ・ リニア中央新幹線開業を迎えるために必要な交通機能の確保と空間の形成を、駅前広場の南側で図る（整備イメージ）

① 顔となる広場の整備 ② まちへの動線の確保 ③ タクシースペースの改善



整備前の駅前広場の状況（令和4年12月時点）



■ 名古屋駅西側駅前広場 整備計画（リニア中央新幹線開業時の姿）

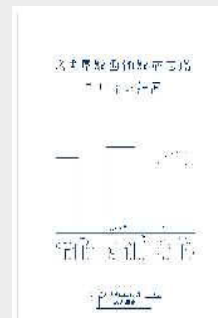
- 令和4年12月に策定した『名古屋駅西側駅前広場デザイン計画』を基に、屋根、植栽、舗装、ファニチャーなど詳細な整備内容を取りまとめた

（整備イメージ）



『名古屋駅西側駅前広場 デザイン計画』（R4.12）

西側駅前広場のリニア中央
新幹線開業時の姿について、
デザインの基本的な考え方
を取りまとめたもの



「※」はSRTの乗降・待合空間の検討箇所



施設計画

屋根

角のない曲面の形状の白色系の屋根が、柔らかく、軽やかで、清潔感のある印象を与え、多くの人に親しまれる空間を演出する。



照明

人が歩く動線は、明るく安心して歩くことができる照明とする。また、人が滞留する空間は、間接光による照明とし、落ち着いた雰囲気を出す。



ファニチャー

利用者の行動に応じた使い勝手の良い配置とし、駅前広場を特徴づける親しみのあるデザインとする。



舗装

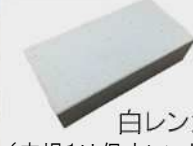
周囲の施設や既存の舗装材と調和するとともに、リニアの玄関口にふさわしい風格のある材料や、地場産の親しみが持てる材料とする。

流動域



白御影石

滞留域



白レンガ
(広場1は保水レンガ)



植栽

まちへの直進性を意識して高木を配置するとともに、駅前広場で過ごす人が、植栽による緑陰や憩いを感じられる空間とする。

サイン

サインは、情報の一体性・連続性・継続性を考慮して配置する。

総合情報案内所

地域の観光やイベント、周辺のまちづくり情報を発信する機能を持った総合情報案内所を設ける。

維持管理

- ・リニアの玄関口として、安全で快適な空間の維持を図る。
- ・にぎわい創出や一部維持管理の質の向上を目指し、地元や周辺事業者等と一緒に、整備段階に応じて、エリアマネジメント活動を展開していくことを目指す。

導入する機能

環境への配慮

グリーンインフラとして、保水性舗装や、植栽帯に雨水を活用する雨庭等を導入する。等

快適性向上

広場利用者の快適性向上のため、利用者が滞留する場所にミストを導入する。

ユニバーサルデザインへの配慮

タクシー乗車場において、UDタクシー対応の乗車スペースを確保する。等

災害対応

災害発生時、デジタルサイネージ等を用い、災害情報を発信する。等

魅力向上・発信

広場の魅力向上策として、プロジェクションマッピングができる機能を導入する。

最先端技術を用い、観光資源についての発信や事業PRを実施する。

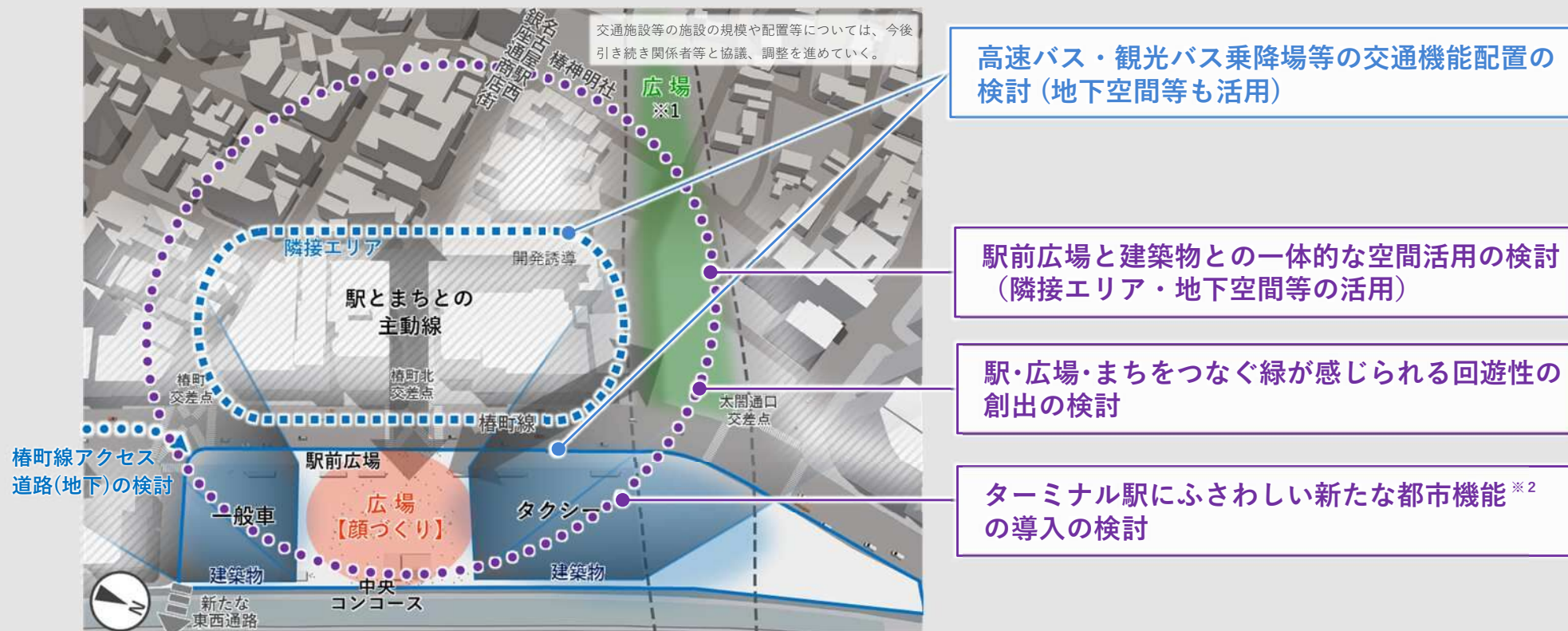
※今後、関係者協議により内容が変更される可能性があります。

※魅力を高める仕掛けづくりや、まちとの連携強化について引き続き検討を進めます。

■ 西側エリアの目指す姿

- リニア開業後できる限り早期に、駅前広場の地下や上空なども活用し、高速・観光バス乗降場を含めた交通結節機能の立体的な配置や、総合案内機能を導入するなど、民間事業者と連携して、スーパーターミナル駅にふさわしい魅力的な拠点の形成を目指す

(検討イメージ)



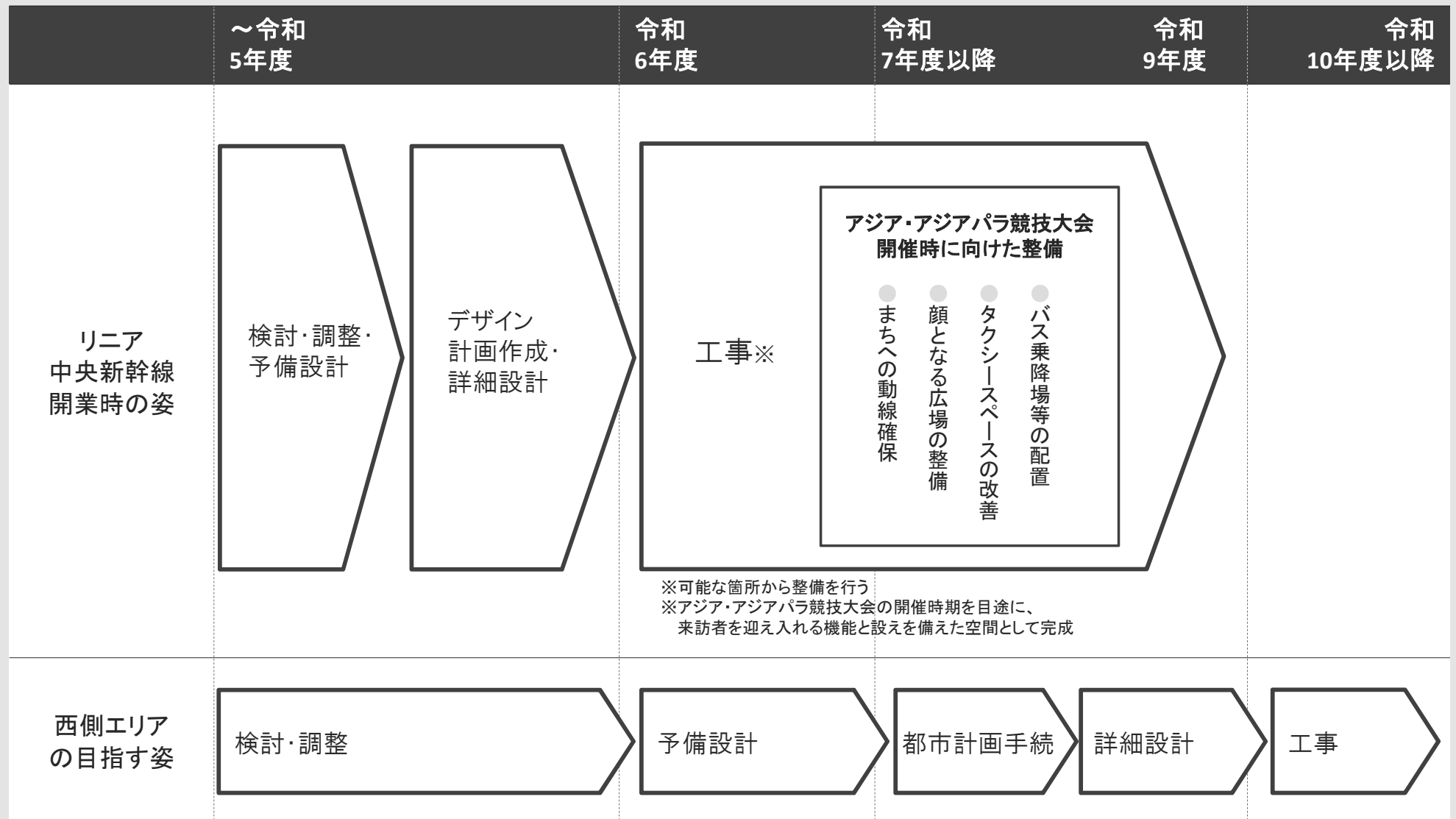
(注) 「新たな路面公共交通システム(SRT)」と整合を図りつつ、乗降・待合空間の配置について検討する。

(注) 駅前広場内に昇降施設、自転車駐車場等を配置することを検討する。

※1 広場・駅前広場内にリニア関連施設が配置される予定。

※2 総合案内(観光案内所・交通案内所等)、文化発信(コンサートホール・美術館等)、産業・ビジネス交流(MICE施設・ハイグレードホテル等)、オフィス等を想定。

■ スケジュール（西側駅前広場）



■ まちの将来像

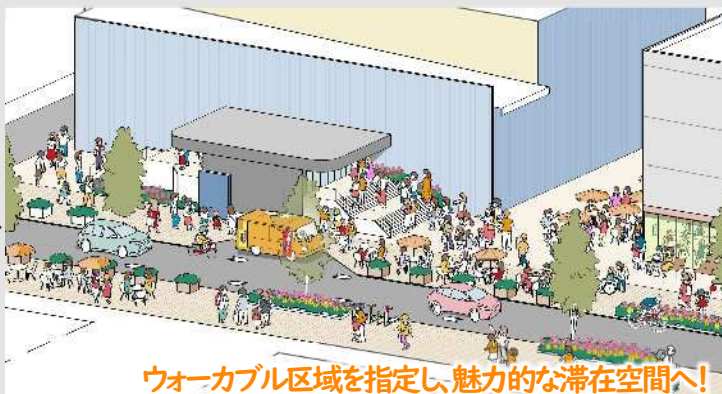
つくってつながり、つながってつくる。「創造・交流タウン名駅南」

■ まちづくりの方針



【方針1】 賑わいがあふれるウォーカブルなまちづくり

賑わいあふれる歩行者空間や居心地の良い滞在空間を創出し、ウォーカブルな（居心地が良く、歩きたくなる）空間への転換を進めます。



取組例 沿道活性化エリアでの歩行者空間の拡充、低未利用土地等の活用、六反公園・祢宜公園の活用

【方針2】 公民の投資により再生するまちづくり

ウォーカブルな取り組みを支える交通機能の強化や民間活力を活かした賑わいの強化などにより、まちを再生する取り組みを進めます。



取組例 ウォーカブルを支える都市計画道路の整備・活用
開発促進重点エリア等での民間開発の支援・誘導
六反公園等の防災設備の設置

【方針3】 新たな体験を誘発し 様々な挑戦を支える クリエイティブなまちづくり

社会実験の場の提供やクリエイティブをテーマとしたイベント実施の促進等により、クリエイティブな活動を支え、発信していきます。



取組例 道路・公園を活用した社会実験の実施・発展
スタートアップ・ベンチャー企業の集積促進

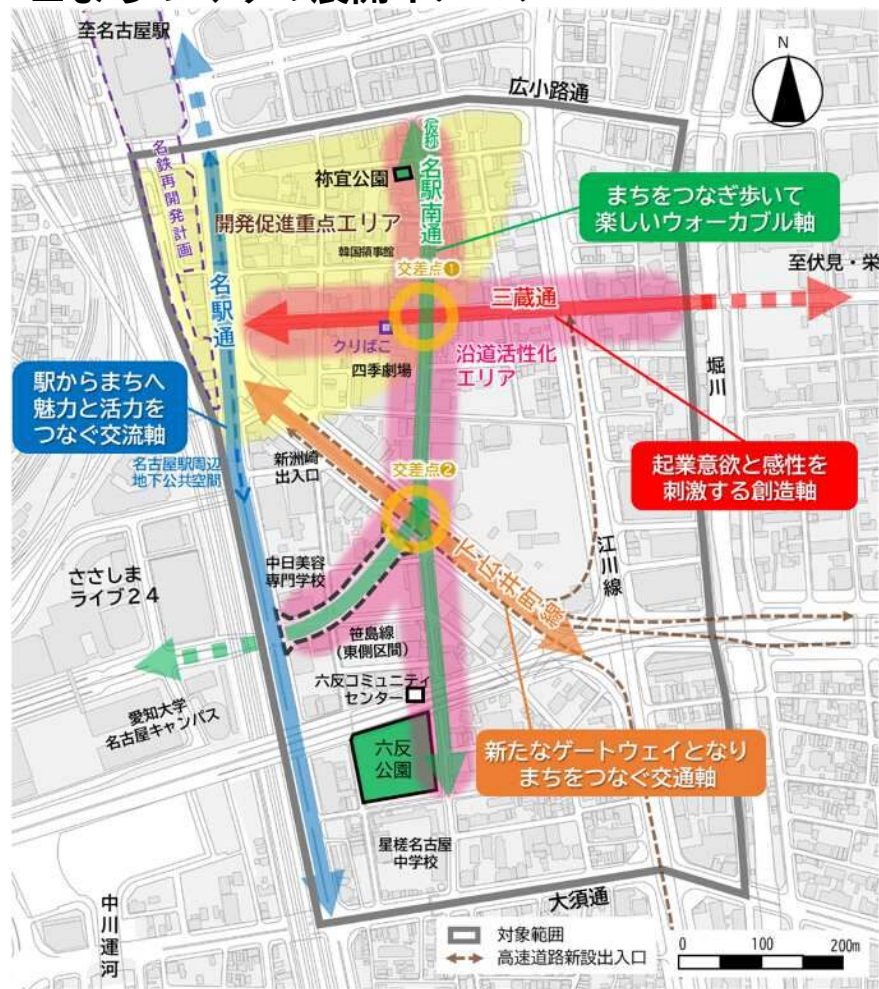
【方針4】 地域の力で地域を育てるまちづくり

住民・企業・学生などの多様な主体の顔が見える関係の構築や地域の個性を生かしたブランディングを促進し、名駅南ならではのまちづくりを進めます。



取組例 住民・まち協・学生等による地域活動の連携強化
（山車祭り・花飾り活動など）

■まちづくりの展開イメージ



・まちづくりを展開する中心的なエリア

■ 開発促進重点エリア

名駅南の玄関口として、名古屋駅からの来街者を迎え入れ、開発ポテンシャルをまちへ波及させるエリア

■ 沿道活性化エリア

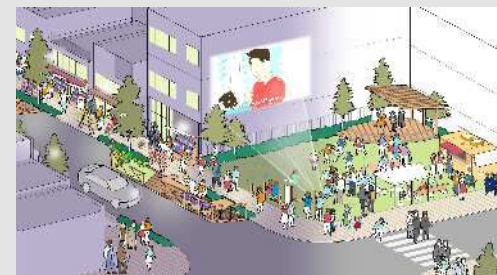
名駅南のメインストリートとして、交流や創造的な活動を促し、ウォーカブルなまちづくりを先導するエリア

・主な道路・交差点の空間再生イメージ

(仮称) 名駅南通

～まちをつなぎ歩いて楽しいウォーカブル軸～

沿道店舗の魅力創出や様々な仕掛けによる賑わい創出などにより、名駅南のメインストリートとしてふさわしい、歩いて楽しいウォーカブルな空間をつくります



三蔵通

～起業意欲と感性を刺激する創造軸～

都心部の主要なビジネス拠点を結ぶ通りとして、起業意欲を促し、クリエイティブな人々を刺激し、挑戦を支える創造性豊かな雰囲気をつくります



下広井町線

～新たなゲートウェイとなりまちをつなぐ交通軸～

名古屋高速道路（新洲崎出入口）の新設により、名古屋駅への新たなゲートウェイとなるとともに、回遊性の高い歩行空間形成や緑豊かな景観形成などにより、多様な交通モードの空間との両立を図ります



名駅通

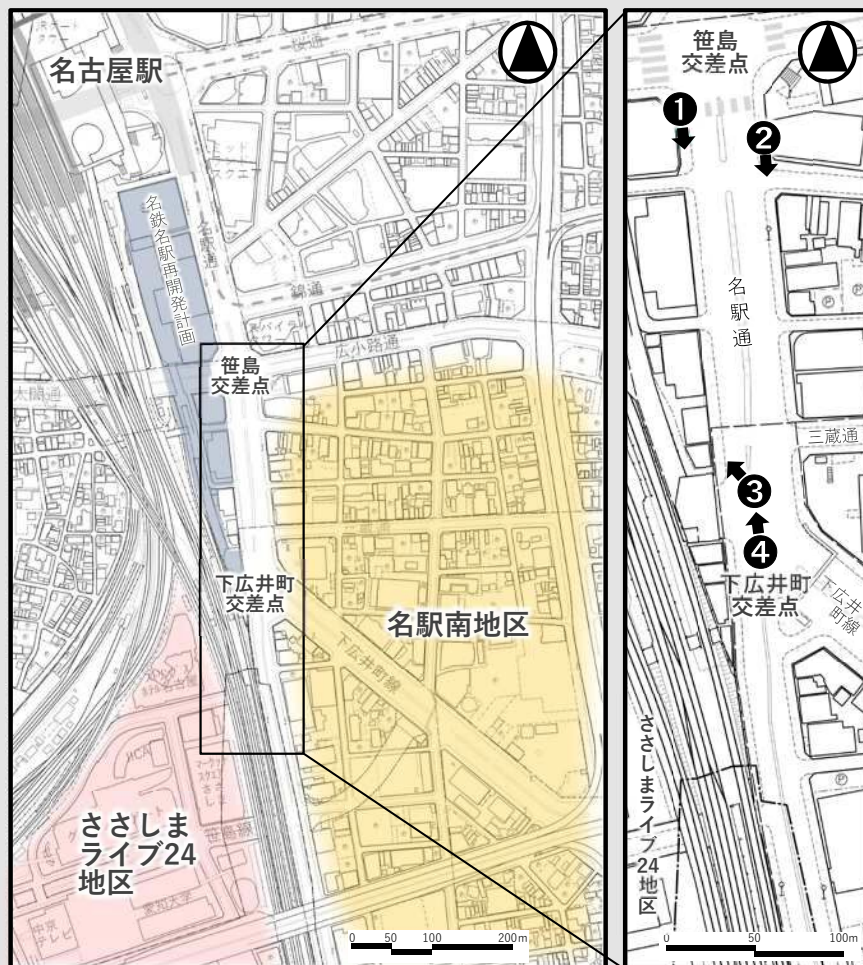
～駅からまちへ魅力と活力をつなぐ交流軸～

名古屋高速道路（新洲崎出入口）の新設により、名古屋駅への新たなゲートウェイとなるとともに、回遊性の高い歩行空間形成や緑豊かな景観形成などにより、多様な交通モードの空間との両立を図ります



名古屋駅周辺の国際競争力の強化をはかるため、にぎわい創出とあわせ、名古屋駅からささしまライブ24地区や名駅南地区へのアクセス改善を推進する

■課題



① 歩行者と自転車の輻輳

■名駅通西側歩道



② 地下から地上へ上り、人であふれる歩道を通行

■名駅通東側歩道



③ 下広井町交差点の信号待ちによる滞留

■名駅通西側歩道

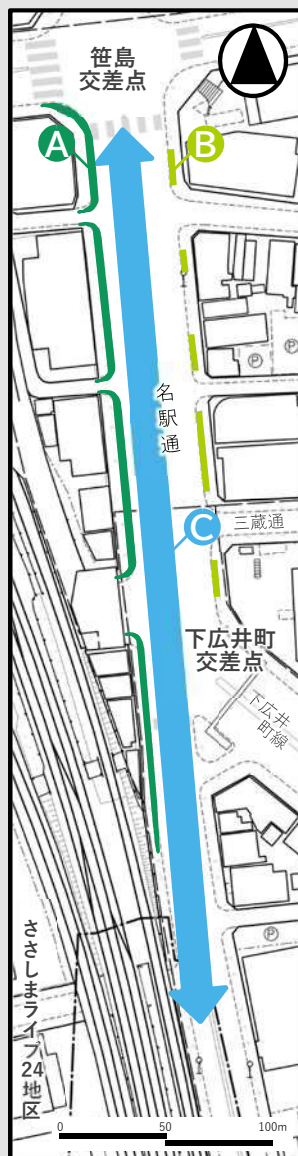


④ 名駅通による東西の分断

■名駅通車道



■取組み



名駅通西側歩道の拡幅 (A)

歩行者と自転車の通行空間を視覚的に分離し、歩行者の安全性を確保
(幅員6.5m→8.5m 令和4年8月供用)

■名駅通西側歩道



依然として歩行者交通量が多い状況

名駅通東側歩道の駐輪場の移設 (B)

歩行者空間の拡充のため、駐輪場の移設に向けた検討・調整を実施

名駅通等の横断機能の強化

地元要望に対応するため、横断機能強化に向けた検討・調整を実施

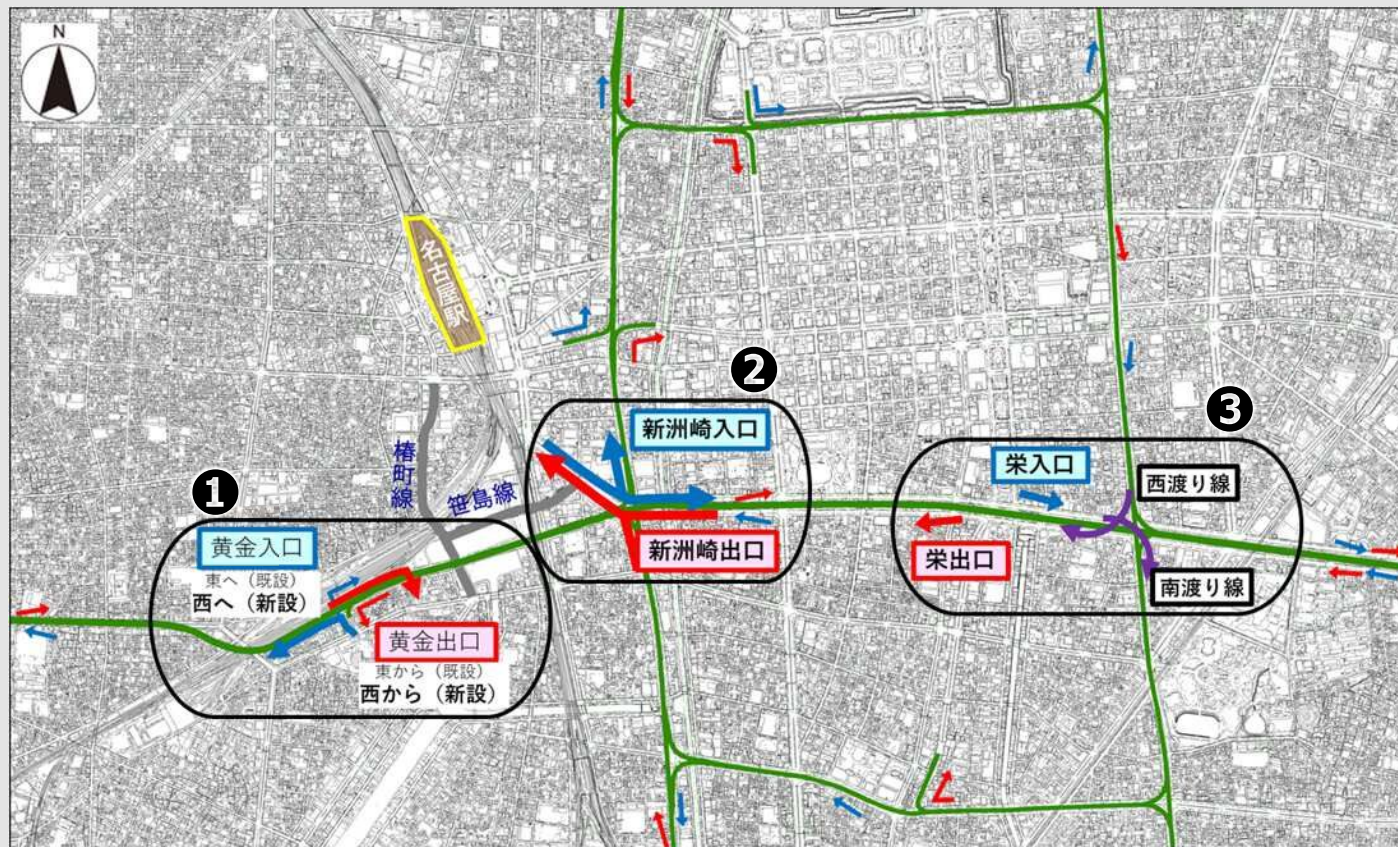
名古屋駅周辺地下公共空間の整備 (C)

地下街等からの快適でスムーズな動線の確保、下広井町交差点の信号待ちによる滞留の解消、名駅通による東西の分断の解消等のため、地下公共空間の事業着手に向けた調整・基本設計等を実施

■下広井町交差点付近のイメージ



■ アクセス性向上の考え方



アクセス性向上の取組み

- ① (仮称)新黄金出入口の新設
- ② (仮称)新洲崎出入口の新設
- ③ (仮称)栄出入口、
丸田町JCT西渡り線・南渡り線
の新設

○整備効果

- ・ 都心環状線の渋滞解消
- ・ 名古屋駅へのよりスムーズなアクセス性向上
- ・ 名古屋駅から中部国際空港を始めとする南方面へのアクセス性向上
- ・ 都心部における自動車の集中緩和

< 整備効果の例① >

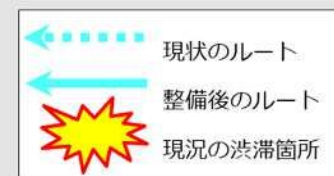
名古屋駅
↓
南・東方面
(中部国際空港等)



至 中部国際空港



至 中部国際空港



< 整備効果の例② >

北方面
(県営名古屋空港等)
↓
名古屋駅



自 県営名古屋空港



自 県営名古屋空港



■まちづくりの基本方針

【基本方針1】
国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す

- (1)国際的・広域的なビジネス拠点・交流拠点を形成する
- (2)玄関口にふさわしい風格とにぎわいを感じさせる顔づくりを進める
- (3)ビジネス拠点・交流拠点にふさわしい安全性を確保するとともに、環境負荷の少ないまちを形成する

【基本方針2】
誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる

- (1)初めての人や外国人にもわかりやすいターミナル駅を形成する
- (2)リニアの速達性を活かすなど交通機関相互の乗換利便性を向上する

【基本方針3】
都心における多彩な魅力をもったまちをつくり、つないでいく

- (1)城下町から超高層ビル群まで新旧織り交ぜた多様なまちの魅力を育て、活かす
- (2)人が主役の歩いて楽しい空間を形成し、回遊性を高める

【基本方針4】
リニア開業を見据え、行政と民間が一丸となって着実に構想を実現する

- (1)まちづくり構想を実現するため、行政がリーダーシップを発揮するとともに、行政と民間、民間相互など様々な主体が連携・協働してまちづくりを推進する

安全性の確保

【P.30】
名古屋駅周辺の防災性の向上

災害リスクへ対応するため、帰宅困難者対策等を実施し、名古屋駅周辺の強靱化を図る

ビジネス拠点・交流拠点の形成

【P.31】
都心部での都市機能誘導

容積率の緩和をインセンティブに、民間投資の促進を図り、都市機能の導入を促進

【P.32】
拠点市街地等における沿道・界隈活性化の推進

【P.33】
Nagoyaまちなかウォークブル戦略〈Nagoまち戦略〉

3. 名古屋駅周辺まちづくりに関する動き（P.5～P.26）

多彩な魅力を創出

【P.28-29】
地区毎の特色を活かしたまちづくり

官民協働で地域のまちづくりを促進し、地域独自の個性を活かす

回遊性の向上

【P.34-35】
新たな路面公共交通システム（SRT）の導入

都心部の魅力ある地域をつないで回遊性を高め、賑わいの面的拡大を創出

名古屋駅周辺まちづくり推進懇談会など

■名古屋駅周辺の地域資源

柳橋



柳橋中央市場

- ・柳橋地区は、名古屋駅周辺の回遊性を高める重要な位置にある
- ・地域の食文化を支える柳橋中央市場を活かしたまちづくりの検討を進める



円頓寺・那古野・四間道



円頓寺商店街



円頓寺本町商店街



四間道

駅西



名古屋駅西銀座通商店街



太閤秀吉モニュメント
(太閤秀吉功路)

納屋橋



納屋橋・堀川

ささしまライブ



クルーズ名古屋



中川運河堀止地区開発（イメージ）

名駅南



クリバコ



名古屋四季劇場

4-(2) 名古屋駅周辺の防災性の向上

■帰宅困難者対策

- ・名古屋駅は全国的にも重要なターミナル駅であり、大規模地震発生の際、最大20.6万人の滞在者・来訪者が見込まれ、そのうち、帰宅できず行き場のない帰宅困難来訪者が**4.4万人**となると想定されている
- ・発災直後の混乱を回避し、滞在者等にとって安全な街を目指すため、官民連携で「**名古屋駅周辺地区都市再生安全確保計画**」を作成し、帰宅困難来訪者を一時的に受け入れる施設（退避施設）の確保などに取り組んでいる

退避施設：45施設（約3.0万人分）
一時退避場所：24施設（約5.5万人分）

名古屋駅周辺地区安全確保計画部会
に59者が参加



防災アプリ



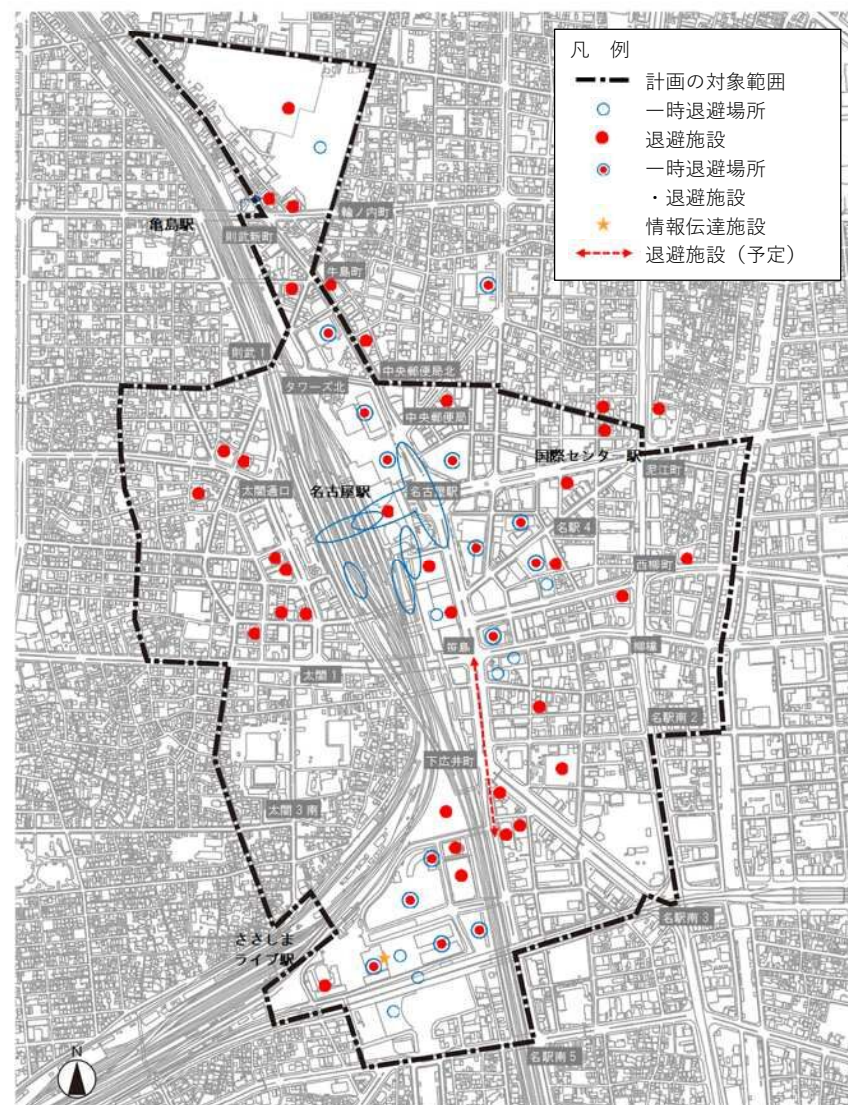
iOS版



Android版

- ・緊急の防災情報がプッシュ通知で届く
- ・大規模地震の災害リスクが表示できる
- ・一時退避場所 や 退避施設 を確認できる

〔一時退避場所・退避施設・情報伝達施設の位置図〕



第3次名古屋駅周辺地区都市再生安全確保計画（改定版）
（令和5年7月一部変更）

■都心部約350haにおいて容積率緩和をインセンティブに都市機能を誘導

名古屋駅・伏見・栄地区都市機能誘導制度

- ・ 指定容積率変更 + 地区計画により、土地の 高度利用 + 都市機能の増進を図る
- ・ 変更前の指定容積率を超えて建築する場合は、誘導用途の導入や公共貢献などの認定基準への適合が必要

★ポイント

認定とすることで個別の都市計画や許可よりも簡易かつ迅速に容積率を緩和

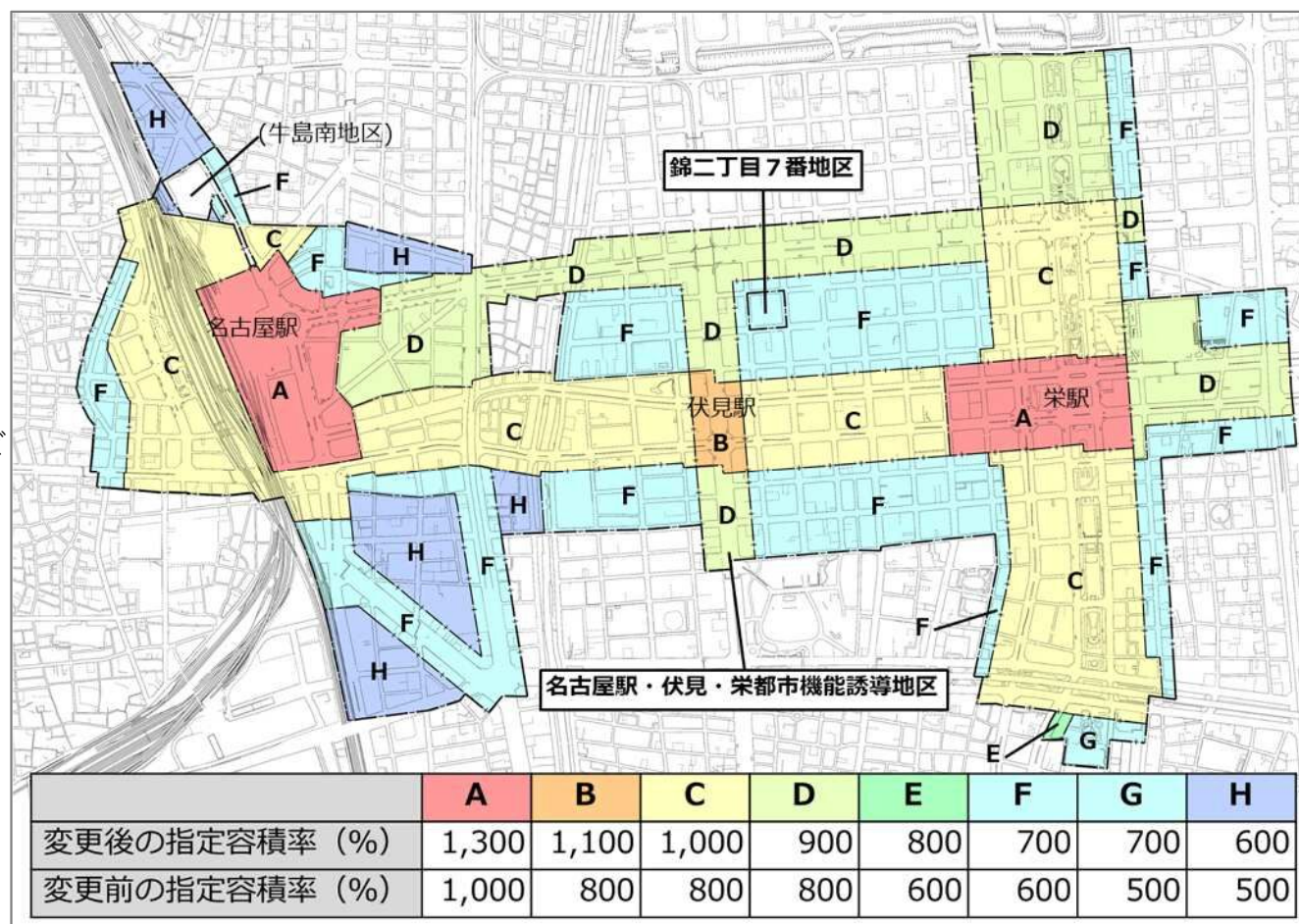
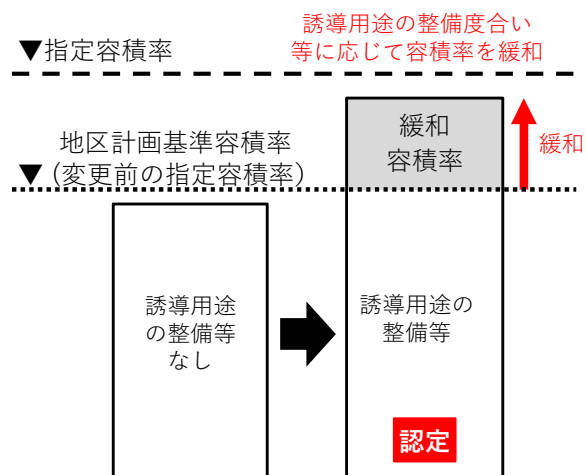
- ・ 誘導する都市機能（例）

【誘導用途】

劇場、イノベーション施設、ハイグレードホテル、低層階店舗（1階） など

【公共貢献】

緑化率20%以上の確保、オープンスペース整備 など



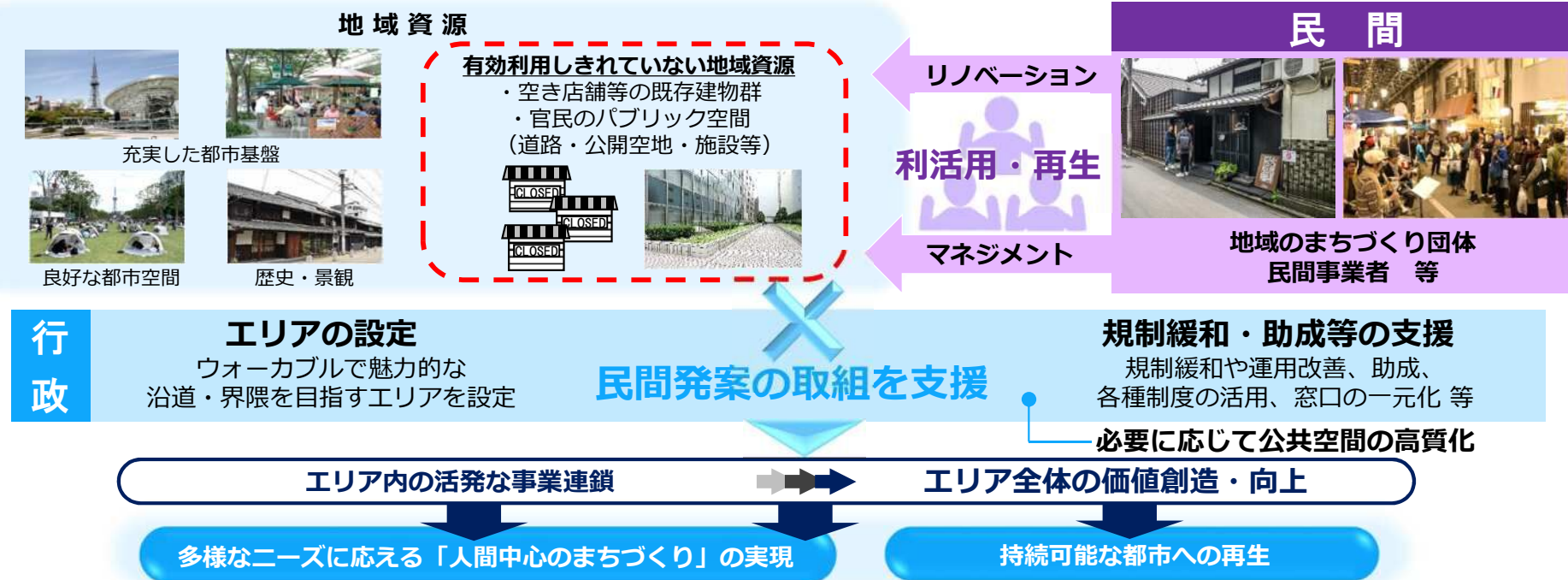
■拠点市街地等における沿道・界隈活性化の推進

- 既存ストックを新たな魅力や価値を生み出す地域資源として活用し、回遊性や賑わいを面的に広げていくことで、居心地が良く歩きたくなる「ウォーカブルなまちづくり」を目指し、エリア全体の持続的な価値向上を図る

課 題

都心部の二大拠点である名古屋駅・栄地区においては、大規模な民間再開発等が進んでいるが、その他の**特色ある地域等の沿道・界隈**では、既存ストックが十分に有効活用しきれておらず、**回遊性や賑わいが相対的に不足**してしまっているところがある。

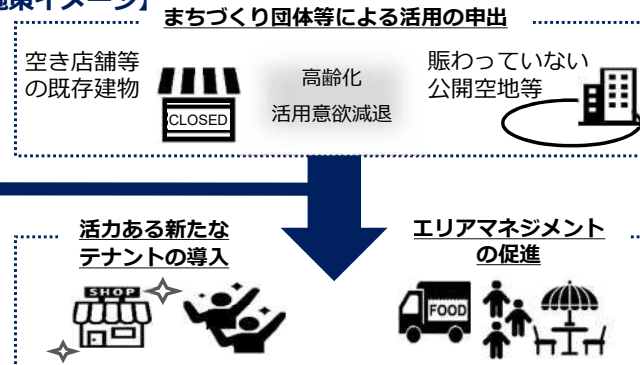
ウォーカブルなまちづくりのイメージ



【実現に向けた施策の3つの柱】

- ① 連鎖的建物
リノベーションの促進**
有効活用しきれていない既存建物の低層部等を地域の賑わいやコミュニティ活性化に資する場となるようリノベーションし、**エリア内の連鎖**に繋げていく。
- ② 賑わいの場としての
公開空地等の再生**
「Nagoyaまちなかオープンスペース制度」等により、公開空地等を憩いや賑わいが生み出される高質な空間づくりを誘導し、活用を促進する。
- ③ 地域が主体的に行う
まちづくりの推進**
既存ストックをリノベーションやマネジメントする人材・団体の育成や活動を支援することにより、**持続的かつ発展的なエリアマネジメント**を促進する。

【施策イメージ】



さらに、ウォーカブルなまちづくりを進めるため、目指すまちの姿や、官民が連携して取り組むための基本方針などを盛り込んだウォーカブル戦略を策定

■ Nagoyaまちなかウォーカブル戦略〈Nagoまち戦略〉の策定

＜目指すまちの姿＞

居心地の良い特別な場所

サードプレイスあふれる「NAGOYA」

ー居心地の良さで選ばれるまちへー

●ウォーカブルなまちなかの実現に向けた戦略

「スペースをプレイスへ そしてエリアに」

以下のようなステップで取組みを展開していくことで、市内の各エリア（地域）の価値が向上し、結果として、都市全体にウォーカブルな空間が波及します。

STEP1

スペースを**つかう**ことで、思い入れのあるプレイスにする。

誰にとってどのような居場所となるのか考え、プレイスを**つくる**。

名古屋市
〈都市〉

エリア
〈地域〉

プレイス
〈居場所〉

スペース
〈空間〉

STEP2

複数のプレイスを**ちかづける**ことでエリアの価値が向上し、地域力が高まる。

サードプレイスあふれるまちへ

複数のエリア価値向上による相乗効果発揮で名古屋の都市力が高まる。

●ウォーカブルなまちを実現するための要素

居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちにするためには、ウォーカブルなまちを実現するための要素を、**地域特性**などを踏まえて、**組み合わせ活用**することが大切です。

戦略1 官民のパブリック空間をつかう

- ① エリアマネジメント
- ② 道路空間活用
- ③ 公園活用
- ④ 公開空地活用
- ⑤ 低未利用土地活用



戦略2 新時代の都市デザインでプレイスをつくる

- ⑥ エリアリノベーション
- ⑦ 都市景観形成地区におけるアイレベルデザイン誘導
- ⑧ グリーンインフラの活用
- ⑨ 駐車場施策



戦略3 プレイスどうしをちかづける

- ⑩ 新たな路面公共交通システムSRT
- ⑪ モビリティ



●ウォーカブルなまちづくりプロジェクト

ウォーカブルなまちを実現するための要素を組み合わせ、市内各地で取り組む、ウォーカブルなまちづくりプロジェクトの取り組み状況を掲載します。

「プロジェクトの例」

◆ 名古屋駅地区

・リニア駅周辺 ・駅前広場周辺の再整備

◆ 名駅南地区

等

4-(4) 新たな路面公共交通システム（SRT）の導入

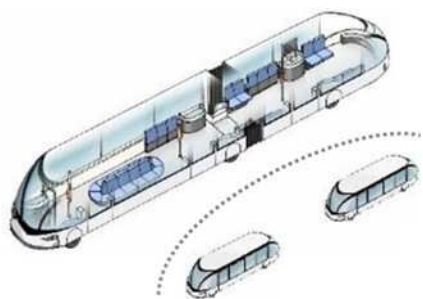
※「SRT」とはSmart Roadway Transitの略

◆「新たな路面公共交通システムの実現をめざして(SRT構想)」(平成31年1月)

- ・都心における回遊性の向上や賑わいの拡大を図るため、まちづくりと一体となり、車両、走行空間、乗降・待合空間などが相互に連携したシステム
- ・技術の先進性による快適な乗り心地やスムーズな乗降、洗練されたデザインなどのスマートさを備え路面を走る新しい移動手段

車両

まちなかでの存在感やシンボル性があり誰もが安心して快適に乗車できる先進的な車両



走行空間

道路利用者の安全性や利便性に配慮しながら、存在感があり、スムーズで快適な走行環境を創出



乗降・待合空間

利用者がスムーズに乗降でき、快適に待てる空間とするとともに、歩道との一体性を高め、まちの情報案内機能を備えることで回遊性や賑わいを創出



◆「名古屋交通計画2030」(令和5年3月策定)

リニア中央新幹線開業時にSRTの導入効果を最大限に発揮することを目指し、課題解決に必要な検証を行いながら段階的に導入を推進

当初運行時

- ・都心の中で特に移動が多い名駅－栄間の「東西ルート」からSRTを導入
- ・周辺で大型の開発が進み、沿道に店舗などが集積している広小路通において、外観のシンボル性や車内の快適性を備えた**連節バス**を運行
- ・停車車両等の影響を受けにくく、賑わいの拡大につながる**テラス型の乗降・待合空間**を検討

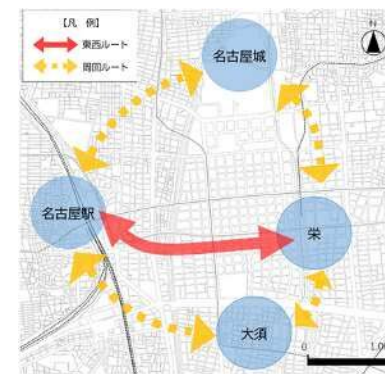


出典：NACTO Blueprint for Autonomous Urbanism

アジア大会開催時

- ・当初運行ルートでの効果や課題を検証しながら、事業規模の拡大を検討し、名駅の整備状況にあわせた発着や、「**周回ルート**」の一部実現を目指す
- ・来訪者などが名古屋駅から都心部の各拠点へ快適に移動できるように導入を図る
- ・先行したルートの効果や課題を検証し、最適な都心部周回ルートの形を目指す

リニア開業以降



《事業の展開イメージ》

＜令和5年度 テラス型乗降・待合空間の社会実験＞

- 公共交通、歩行者中心のウォークアブルな空間を目指して、令和5年度は、広小路通の既存バス停2箇所をテラス型に暫定整備する社会実験を実施。
(通称「なごまちテラス」)
- 社会実験では、まちの回遊拠点としての機能、バスの乗降のしやすさ、一般交通への影響の検証を実施。
- また、まちの回遊拠点としての機能の一つとして、デジタル案内板を設置し、ルート検索や地域と連携したイベント情報などを掲載。



なごまちテラス（納屋橋）



デジタル案内板



地域や沿道と一体となった販わいの様子



＜トータルデザインを実施（令和5～6年度）＞

- 有識者の意見を聴取しながら、コンセプトに基づき、車両や乗降・待合空間など統一感を持たせるとともにまちの風景と調和したデザインとするためトータルデザインを実施。

(SRTトータルデザイン懇談会)



※バースはイメージです。今後、デザインの検討により変更することがあります。

第4回SRTトータルデザイン懇談会資料